

## (2) 麦島城跡

### 1) 現状

麦島城跡は、廃城後に土砂等で埋め隠されたため、現状では具体的な遺構を見ることはできない。天守台跡及び本丸跡（都市計画道路部分）ともに、地形の高低差によって城跡の構造と範囲を確認することができるが、遺構の大部分が地中に保存されており、往時をイメージすることは困難である。

### 2) 構成要素等の保存状況

#### ①天守台跡部分

##### 〈本質的価値を構成する要素の現状〉

- ・天守台石垣の一部が地上に露出している。
- ・都市計画道路下には、天守台の石垣、堀跡、廃城遺構、推定震災遺構が保存されている。
- ・天守台及び廃城時の状況を示す現況地形が存在する。
- ・瓦類、土器類、陶磁器類が出土している。

##### 〈本質的価値を顕在化する要素〉

- ・国史跡指定の説明板が設置されている。

##### 〈保存管理・活用上必要な要素〉

- ・駐車スペースはあるものの、正式な駐車場ではない。

##### 〈史跡の保存管理上調整が必要な要素〉

- ・下水道管理設工事等で出土した石灰岩や、他所から運んできた石材を、城跡の雰囲気醸し出すために配置している。また、車両進入防止を兼ねたモニュメントの役割も担っている。
- ・電柱、物置、駐車車両

#### ②本丸跡部分

##### 〈本質的価値を構成する要素の現状〉

- ・都市計画道路の建設に伴う発掘調査において、小天守及び本丸の石垣、礎石建物跡、井戸跡、瓦敷、溝跡、堀跡、廃城遺構、平櫓等の推定震災遺構を検出した。これらの遺構は道路下に埋設保存されている。
- ・瓦類、土器類、陶磁器類、小天守で使用されていた木製品が出土している。

##### 〈史跡の保存管理上調整が必要な要素〉

- ・都市計画道路、電柱、信号、街路樹

## ③指定地の周辺地域を構成する諸要素

## 〈本質的価値を構成する要素の現状〉

- ・ 麦島城跡では、史跡指定地外でも開発に伴う発掘調査(主に二ノ丸跡)を行っており、石垣、礎石建物跡、井戸跡、瓦敷、溝跡、堀跡、廃城遺構、推定震災遺構を検出している。
- ・ 瓦類、土器類、陶磁器類、金属製品、平櫓の建築部材が出土している。
- ・ 都市計画道路下の二ノ丸跡部分は、原則として埋設保存されている。
- ・ 現況地形、堀跡を反映している水路、古道、地割が保存されている。

## 〈本質的価値を顕在化する要素〉

- ・ 説明板、標木が設置されている。
- ・ 二ノ丸跡に建設された八代市シルバー人材センターには、発掘調査によって検出した二ノ丸の石垣の一部が保存されており、見学することができる。また、麦島コミュニティセンターのロビーでは、麦島城跡に関する展示が行われている。

## 〈保存管理・活用上必要な要素〉

- ・ 八代市シルバー人材センター、麦島コミュニティーセンター

## 〈史跡の保存管理上調整が必要な要素〉

- ・ 住宅、商業施設、自治公民館、病院等
- ・ 寺社、墓地等
- ・ 田畑
- ・ 廃屋、空き家
- ・ キリシタン殉教者列福記念公園

## 3) 公開活用の現状

- ・ 麦島城跡の地元である麦島住民自治協議会が麦島城跡のリーフレットを刊行しており、無償配布している。
- ・ 八代市立麦島小学校及び八代市立第三中学校等において、出前講座を行っている。
- ・ 麦島城跡史跡めぐりを開催している。
- ・ 麦島城跡方面には JR 新八代駅、八代駅よりバスが運行している。最寄りのバス停は、新八代駅からは「麦島中央」あるいは「千反」、八代駅からは「迎町交差点」、「麦島公民館前」及び「古城町」である。
- ・ 麦島住民自治協議会が麦島城跡天守台の草刈り等の環境整備を行っている。
- ・ JR 八代駅・新八代駅、くまナンステーションでレンタサイクルが利用でき

るので、自転車でアクセスすることも可能である。

#### 4) 整備の現状

- ・現状では整備等を行われていない。

#### 5) 課題

##### ①施設

- ・天守台跡に設置してある石材モニュメントを撤去する必要がある。
- ・ガイダンス施設等がない。
- ・遺構が埋設されているため、麦島城跡の存在をイメージさせるものが少なく、来訪者に史跡の価値を伝えることが困難である。そのため、麦島城跡の情報をわかりやすく伝えるための説明板の設置が必要である。

##### ②遺構・遺物の保存

- ・天守台跡については、天守台の構造と廃城時の様相を最もよく表していると考えられ、地形の改変が生じないように保全する必要がある。

##### ③アクセス

- ・自家用車で訪れた際の駐車場がない。シルバー人材センターやコミュニティセンターの駐車場を利用し、徒歩で散策する必要がある。ただし、徒歩で散策すると、天守台や本丸のみならず、場内の高低差等を体感できる利点がある。
- ・JR 八代駅・新八代駅、くまナンステーションでのレンタサイクルの利用を呼びかける。

##### ④その他

- ・一般的に麦島城跡についてより広く周知するため、広報活動が必要である。
- ・遺構の多くは地下に埋設されているので、AR や VR 等を導入する等、麦島城跡をイメージできるものが必要である。
- ・史跡指定地外にも二ノ丸等の石垣が埋設されており、これらについてもサイン等の設置が必要である。
- ・麦島城跡は住宅街となっており、路上駐車や民家への立ち入り等近隣住民と来訪者間のトラブル防止を講じる必要がある。

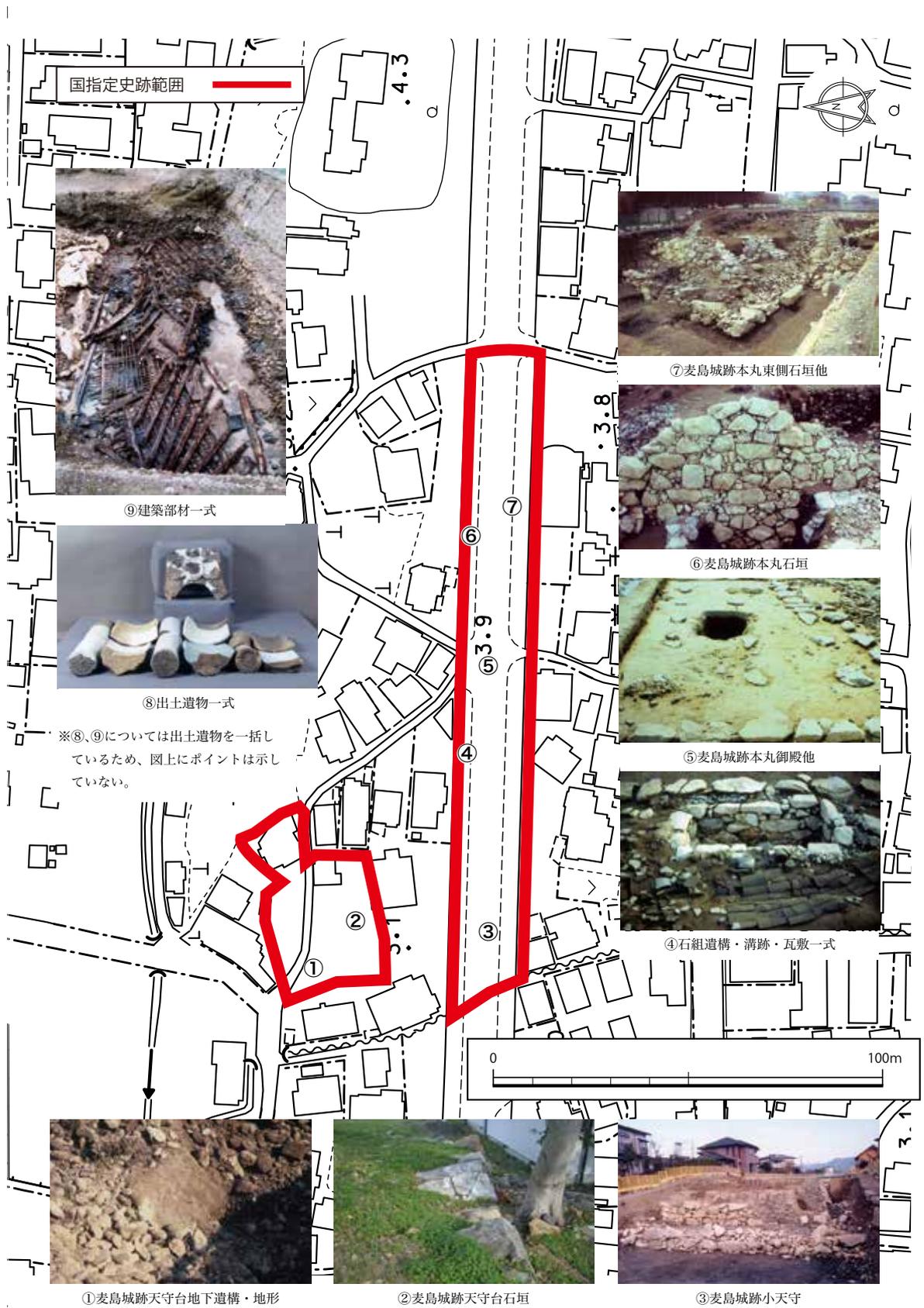


Fig.18 麦島城跡の本質的価値を構成する要素



Fig.19 麦島城跡の本質的価値を顕在化する要素



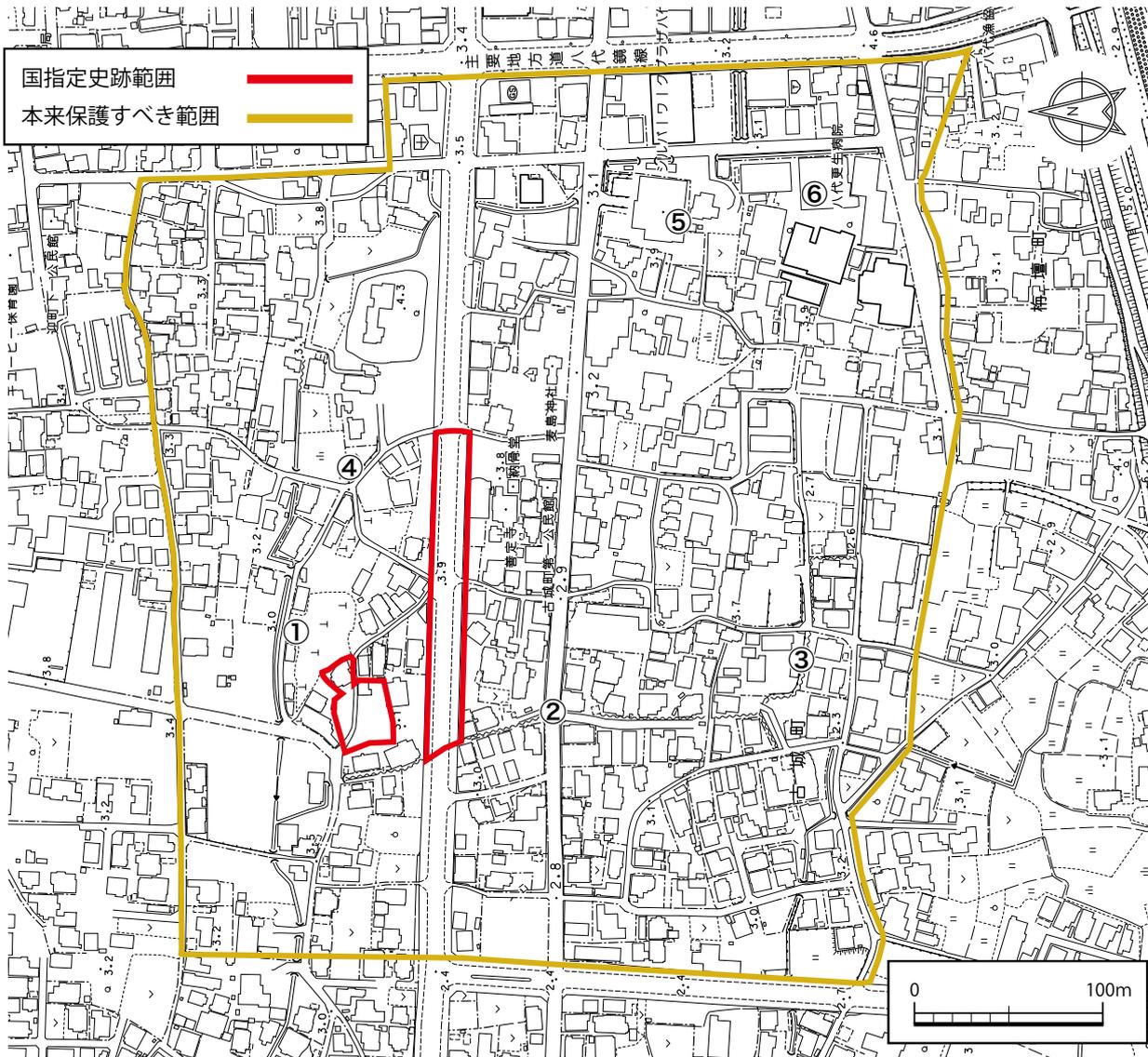
Fig.20 麦島城跡の保存管理上調整が必要な要素



④麦島城跡二ノ丸の石垣

⑤シルバー人材センターの石垣展示

⑥麦島城跡二ノ丸石垣と建築部材



①麦島城跡本丸の石垣



②麦島城跡二ノ丸の石垣



③麦島城跡二ノ丸石垣の名残

Fig.21 麦島城跡の指定地の周辺地域を構成する要素

## (3) 八代城跡

## 1) 現状

本丸には八代宮が、北ノ丸の一部には松井神社が所在し、城跡とともに境内地、そして都市公園としての機能を有している。平成28年(2016)の熊本地震で本丸北側の廊下橋門東側石垣が崩壊したため、平成28年度から平成30年度にかけて保存修復を行った。

北ノ丸部分については、昭和63年(1988)～平成元年(1989)頃にかけて庭園跡の池及び北西側堀跡の浚渫を行った。しかし、近年堀跡では土砂等の堆積が進み、往時の姿をうかがい知ることが困難になっている。なお、令和元年(2019)には試掘調査を実施した。

## 2) 構成要素等の保存状況

## ①本丸

## 〈本質的価値を構成する要素の現状〉

- ・ほぼ全ての石垣が残存している。
- ・礎石建物跡、井戸跡、溝跡、堀跡、廃城遺構が残存している。
- ・瓦類、土器類、金属製品が出土している。

## 〈本質的価値を顕在化する要素〉

- ・説明板、標木が設置されている。

## 〈保存管理・活用上必要な要素〉

- ・駐車スペース
- ・トイレ、展望所、東屋、手洗い・水飲み場及び駐車場が設置されている。
- ・高麗門から頬当御門までは、車椅子や自転車でも通行可能な園路が整備されている。
- ・その他に転落防止柵、照明、上下水道施設、防火・防犯施設等が設置されている。

## 〈史跡の保存管理上調整が必要な要素〉

- ・八代城跡の所有者である八代宮の本殿・拝殿、社務所、住宅等の神社関連施設
- ・公園管理事務所、八代市相撲場
- ・戦争関連の石碑や天皇陛下御展望之趾碑等

②北ノ丸

〈本質的価値を構成する要素の現状〉

- ・北面、東面には石垣が残存している。
- ・八代市立第一中学校側には堀跡が残存している。
- ・確認調査の結果、礎石建物跡を検出した。現在は埋め戻されている。
- ・庭園跡が残されている。

〈本質的価値を顕在化する要素〉

- ・説明板（臥龍梅）、標木が設置されている。

〈保存管理・活用上必要な要素〉

- ・東屋、トイレ、広報板が設置されている。
- ・照明、上下水道施設、防火・防犯施設等が設置されている。

〈史跡の保存管理上調整が必要な要素〉

- ・松井神社本殿・拝殿、社務所等の神社関連施設
- ・英霊碑や歌碑等の石碑
- ・八代市立第一中学校校庭

③旧八代市厚生会館芝生広場

〈本質的価値を構成する要素の現状〉

- ・確認調査の結果、三ノ丸西側の石垣を検出した。現在は埋め戻されている。

〈保存管理・活用上必要な要素〉

- ・駐車場、照明、防火・防犯施設

〈史跡の保存管理上調整が必要な要素〉

- ・旧八代市厚生会館掲示板
- ・旧八代市厚生会館駐車場

④指定地の周辺地域を構成する諸要素

〈本質的価値を構成する要素の現状〉

- ・三ノ丸における発掘調査で石垣、礎石建物跡、堀跡を検出した。
- ・瓦類、土器類等が出土している。

〈本質的価値を顕在化する要素〉

- ・説明板（永御蔵跡）や標木が設置されている。

〈保存管理・活用上必要な要素〉

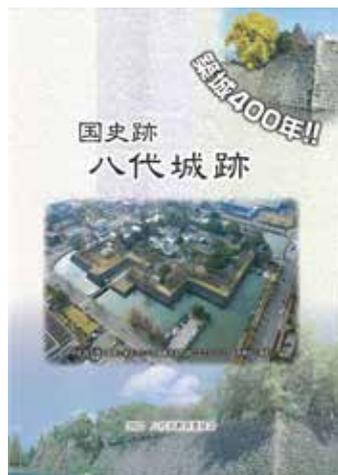
- ・案内板や照明が設置されている。

## 〈史跡の保存管理上調整が必要な要素〉

- ・三ノ丸に所在した永御蔵跡には、復元された井戸が設置されている。
- ・八代城の堀跡を示す水路（代陽コミュニティセンター西側）
- ・松井家の家臣である澤井家住宅及び長屋門（八代市指定）が残されている。
- ・八代城跡西側に八代市立博物館未来の森ミュージアムが所在する。
- ・八代市立第一中学校の校庭南東隅に織田信長供養の五輪塔（市指定）が所在する。
- ・住宅、商業施設等が所在する。
- ・八代市民俗伝統芸能伝承館（お祭りでんでん館）が所在する。

## 3) 公開活用の現状

- ・本丸跡については広く公開されている。
- ・八代市立博物館において、遺物の展示や解説等が行われている。
- ・廊下橋門東側石垣の復旧工事に伴い、見学会を開催した。
- ・桜の時期には花見目的の来訪者が多く訪れる。
- ・令和4年（2022）9月23日から25日にかけて八代城築城400年を記念したシンポジウムやイベント、企画展や連続講座等を開催した。
- ・築城400年に際して、八代城跡のリーフレット及び周遊マップを作成した。
- ・JR八代駅・新八代駅、くまナンステーションでレンタサイクルを借りて、周遊することができる。



## 4) 整備の状況

- ・本丸内の高麗門から頬当御門まで通路が整備されているが、現状では一部破損している。
- ・令和3年（2021）に欄干橋が整備された。

5) 課題

①施設

- ・城内の各所に標木が設置されているが、これらを説明板へと変更することが必要である。
- ・天守台東側に設置されている公園管理事務所の移転が必要である。
- ・北ノ丸に設置されている東屋が破損しているため、撤去あるいは新設が必要である。

②遺構・遺物

- ・石垣には孕み等が見られる箇所もあり、石垣の現状を知るために早急な石垣カルテの作成が必要である。
- ・北ノ丸堀跡の環境整備が必要である。
- ・フルハーネスの墜落制止用器具の着用が義務付けられたため、本丸石垣に繁茂した草木類の除去を担うボランティア活動に影響が生じている。



Photo.27

八代城跡北ノ丸東屋の現況（北西より）



Photo.28

東屋の屋根の破損現状（北西より）



Photo.29

八代城跡本丸石垣の雑草類繁茂状況（北より）



Photo.30

高麗門から頼当御門に至る通路の破損状況（南東より）



八代城跡本丸全景



八代城跡本丸石垣

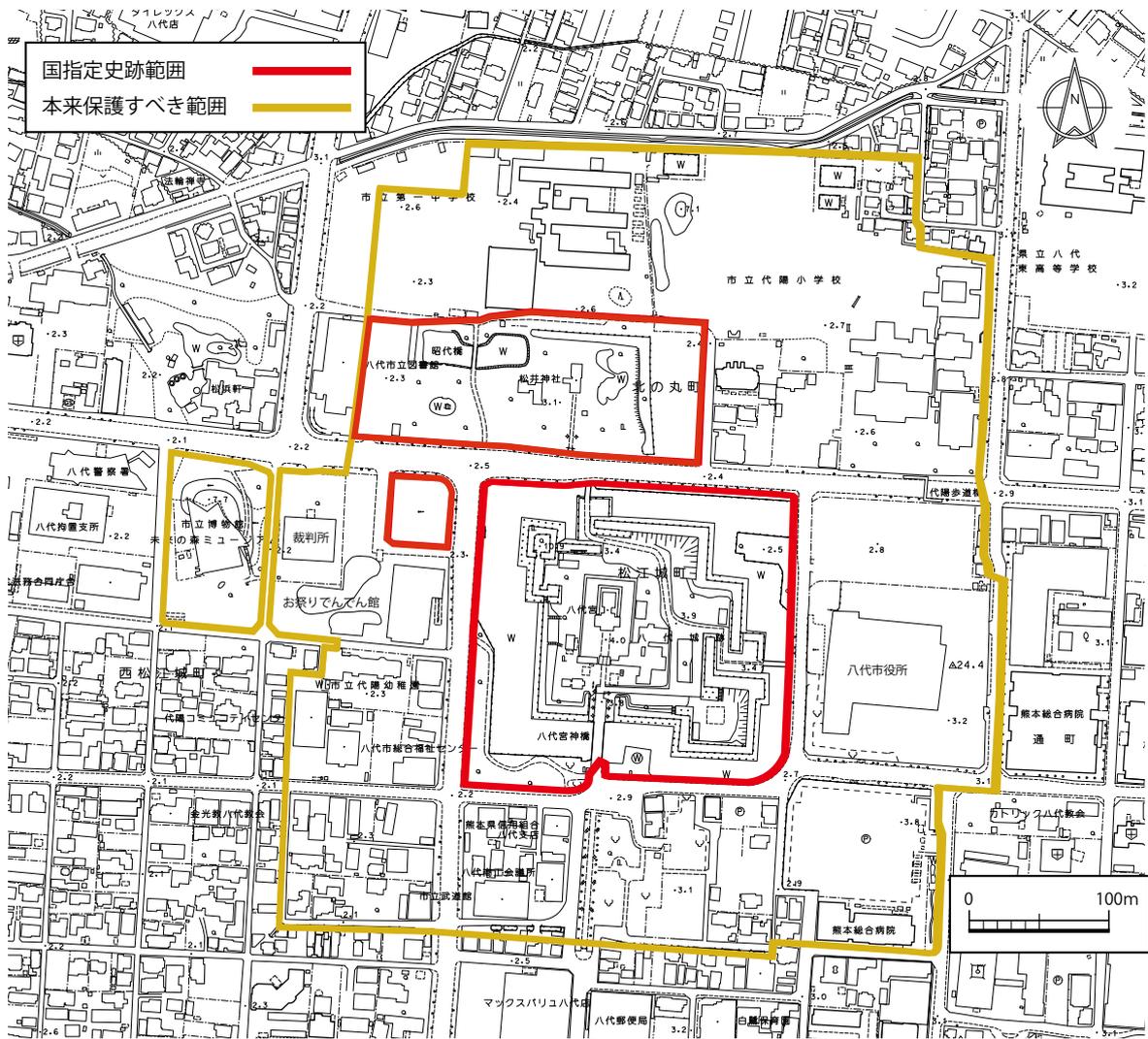


Fig.22 八代城跡の本質的価値を構成する要素



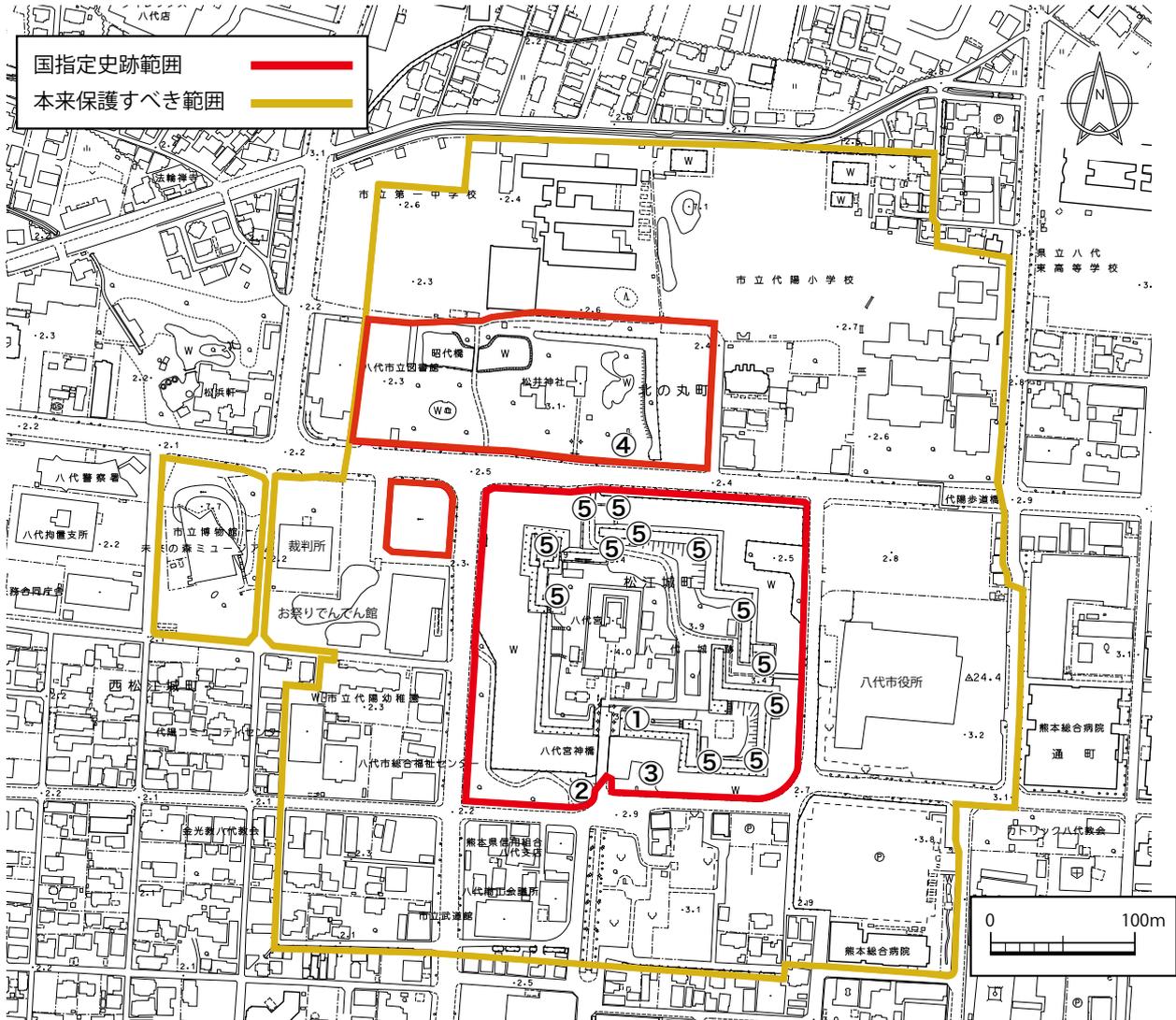
④臥龍梅説明板



⑤建造物標木一式



⑤建造物標木一式（標木は城跡内に点在）



①国指定史跡説明板一式



②八代城絵図説明板



③史跡案内板

Fig.23 八代城跡の本質的価値を顕在化する要素



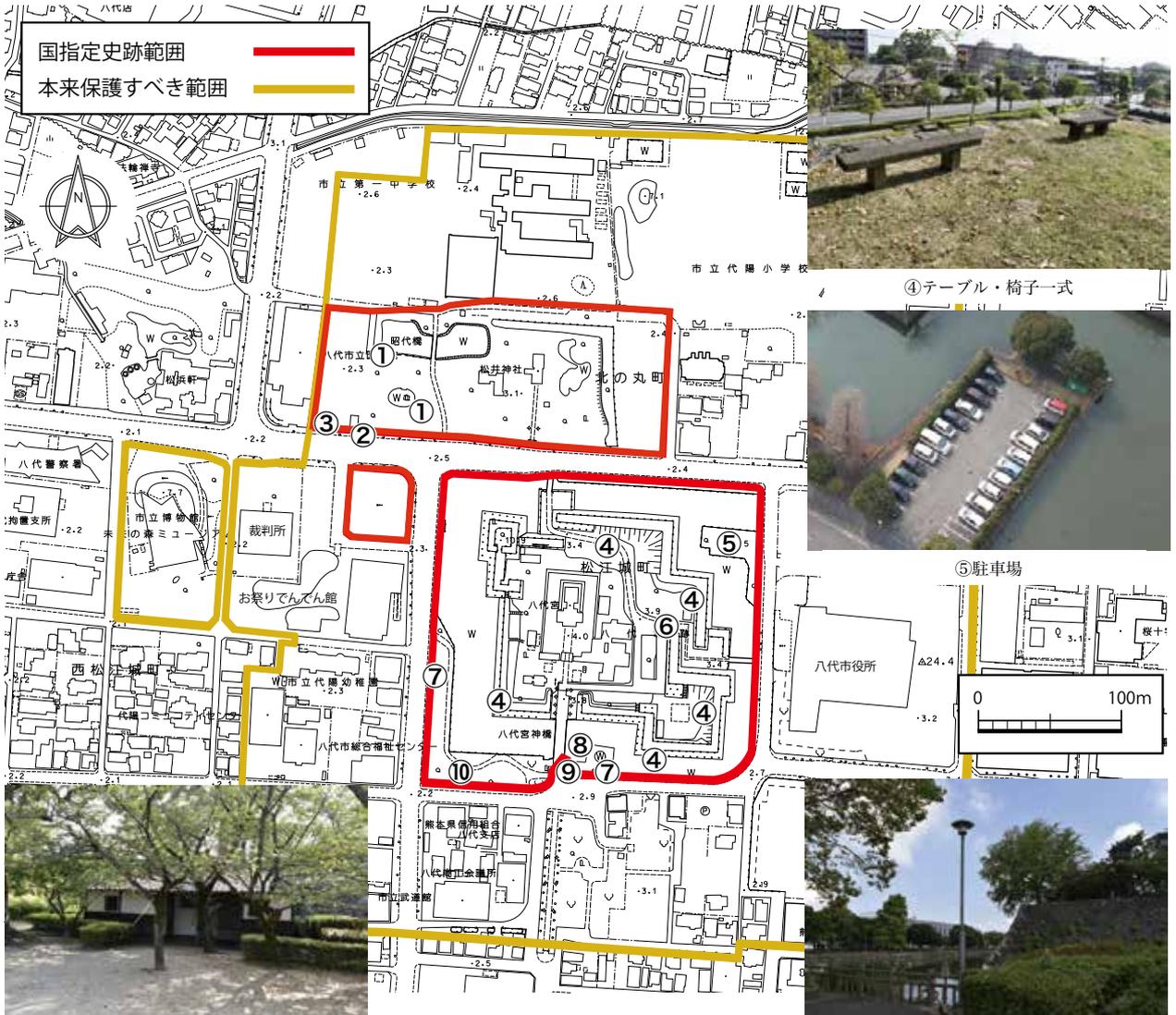
①東屋



②北ノ丸トイレ



③広報板



④テーブル・椅子一式



⑤駐車場



⑥本丸トイレ



⑦照明一式



⑧噴水



⑨避難所案内板



⑩手洗い・水飲み場

Fig.24 八代城跡の保存管理・活用上必要な要素

第3章 史跡の概要及び現状と課題

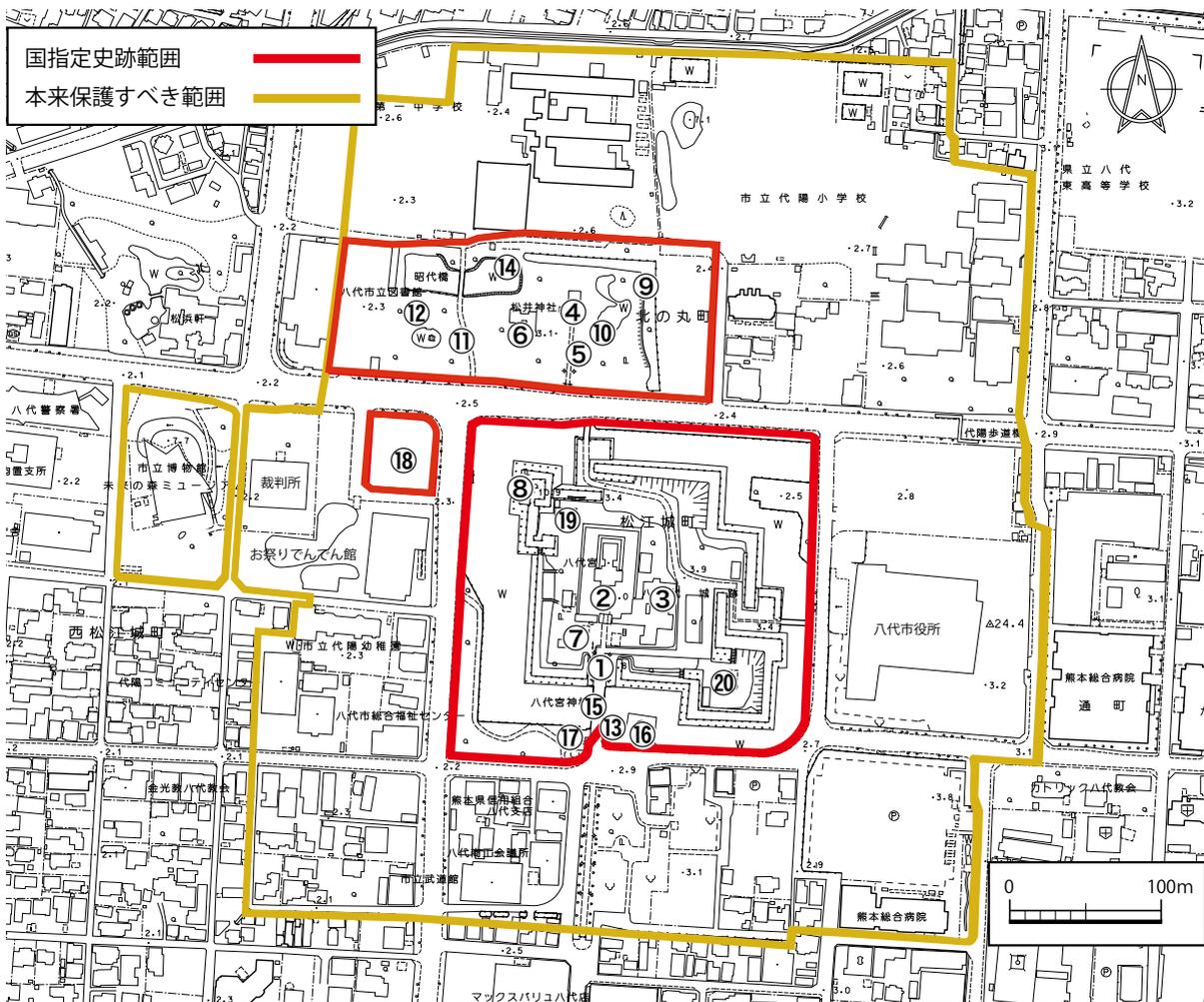


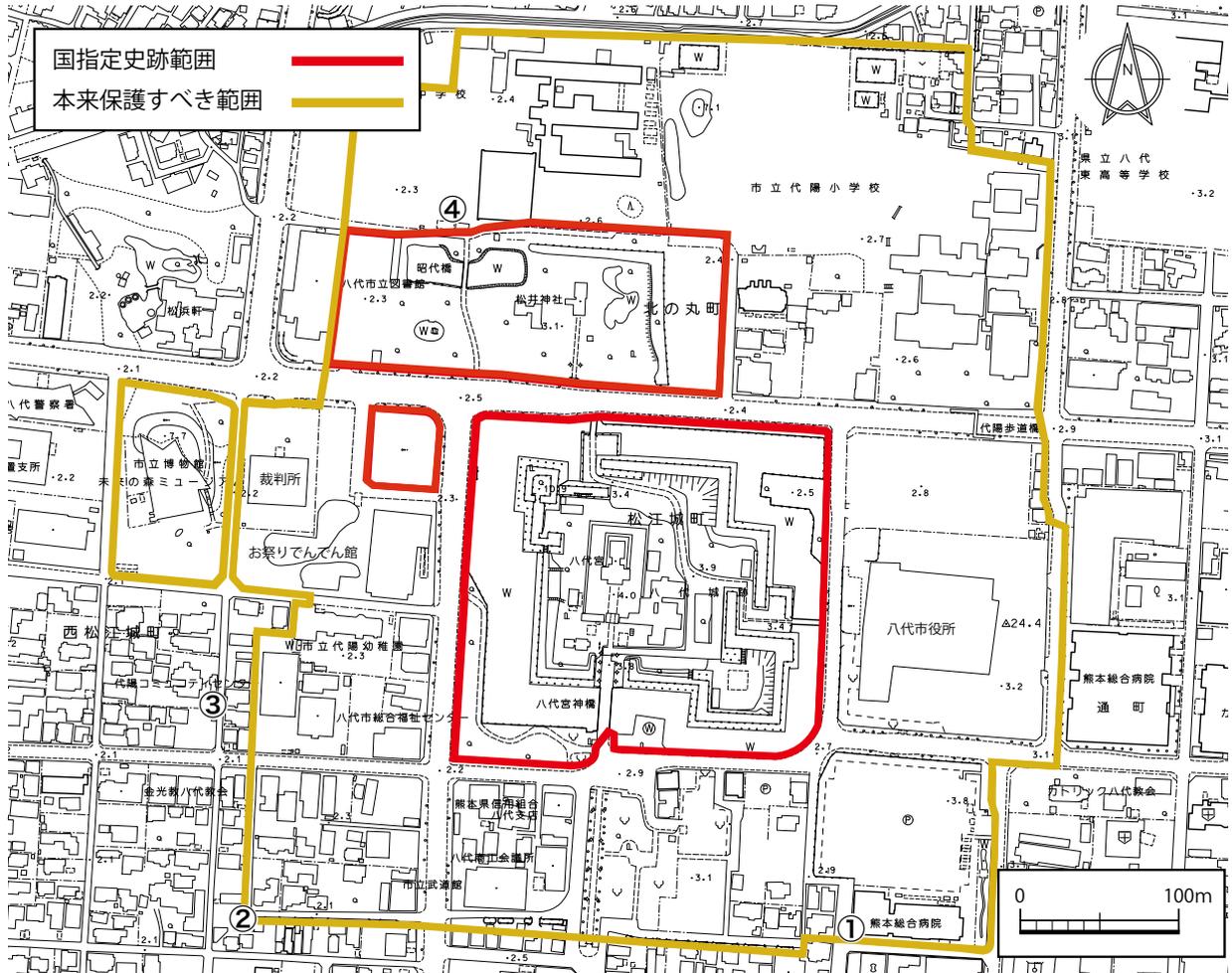
Fig.25 八代城跡の保存管理上調整が必要な要素



③澤井家住宅及び長屋門



④織田信長墓-五輪塔



②八代城跡三ノ丸堀の名残



①八代城跡二ノ丸の石垣

Fig.26 八代城跡の指定地の周辺地域を構成する要素

#### (4) 平山瓦窯跡

##### 1) 現状

平山瓦窯跡は、熊本県史跡指定後の平成12年(2000)度から平成14年(2002)度に整備を行った。出土した3基の窯跡のうち2基を現地保存している。2基の窯跡は埋戻して保存し、その上部隣接地に遺構出土状態のレプリカと復元窯体を展示している。レプリカと復元窯体には覆屋が設けられている。

##### 2) 構成要素等の保存状況

###### ①史跡指定地

###### 〈本質的価値を構成する要素の現状〉

- ・ 窯跡、瓦廃棄孔が保存されている。
- ・ 瓦類、土器類が出土している。

###### 〈本質的価値を顕在化する要素〉

- ・ 説明板、標木等が設置されている。
- ・ 窯跡レプリカ、復元達磨窯が設置されている。

###### 〈保存管理・活用上必要な要素〉

- ・ 柵

###### ②指定地の周辺地域を構成する諸要素

###### 〈史跡の保存管理上調整が必要な要素〉

- ・ 平山城跡

南北朝時代の初め、八代荘の代官内河義真が、初めて八代城の支城として築城した山城で、正平13年(1358)頃から松岡氏が代々在城した。

##### 3) 公開活用現状

- ・ 市教育委員会が平成10年(1998)に、熊本県史跡指定時点のリーフレットを作成した。
- ・ 最寄のバス停は「平山新町」である。
- ・ 鉄道では肥薩おれんじ鉄道の「肥後高田駅」が最寄駅である。
- ・ JR八代駅・新八代駅、くまナンステーションでレンタサイクルが利用できる。自転車でアクセスすることも可能である。

##### 4) 整備現状

- ・ 平成12年(2000)度から14年(2002)度に整備が行われた。

- ・レプリカと復元窯体を展示している。

## 5) 課題

### ①施設

- ・復元した窯跡と達磨窯のレプリカは、経年劣化等に起因する破損が度々発生しており、適時修理・修復が必要である。

### ②アクセス

- ・有効な移動手段は自動車であるが、周辺に駐車場はない。
- ・JR八代駅・新八代駅、くまナンステーションから離れているが、古麓城跡及び松井家墓所等との見学と併せて、レンタサイクルの利用を呼びかける。

本質的価値を構成する要素



①-1 地下保存の遺構群



①-2 地下保存の遺構群

※①-1、2については地下保存の遺構群であるため、図上にポイントは示していない。

本質的価値を顕在化する要素



②復元達磨窯



③窯跡レプリカ



④説明板



⑤説明板



⑥説明板

保存管理・活用上必要な要素



⑦柵



Fig.27 平山瓦窯跡の本質的価値を構成する要素、本質的価値を顕在化する要素、保存管理・活用上必要な要素

## (5) 松井家墓所

### 1) 現状

松井家墓所は、春光寺境内に所在している。墓所のうち、旧廟及び新廟については、後世に屋根の葺替えが行われている。また、本堂は明治34年(1901)に建て替えが行われ、現在に至る。しかし、旧廟の屋根及び壁が傷んでおり、早急な修復が必要である。

### 2) 構成要素等の保存状況

#### 〈本質的価値を構成する要素の現状〉

- ・旧廟、新廟、五輪塔群、石積み、庭園、接続路、削平地が所在する。

#### 〈本質的価値を顕在化する要素〉

- ・説明板(永御蔵御門、番所)、標木が設置されている。

#### 〈保存管理・活用上必要な要素〉

- ・駐車場、トイレ、案内板、柵

#### 〈生活文化形成に係る要素〉

- ・春光寺

#### 〈史跡の保存管理上調整が必要な要素〉

- ・歌碑・句碑が設置されている。

### 3) 公開活用の現状

- ・松井家墓所(春光寺)は球磨川の右岸に位置しており、来訪者は主に国道3号から県道158号経由でアクセスしている。しかし、案内標識がなく分かりにくい。
- ・春光境内及び古麓城跡の登口に駐車場がある。
- ・公共交通機関を用いて来訪する場合、JRの最寄駅は「八代駅」であり、八代駅から春光寺まで約2.5kmあることから、徒歩で約30分、タクシー等で5分を要する。
- ・八代駅からバスを利用した場合、宮地バス停から徒歩で約15分を要する。
- ・JR八代駅・新八代駅、くまナンステーションでレンタサイクルが利用できるため、自転車でアクセスすることも可能である。

### 4) 整備の現状

- ・春光寺として、整備が行われている。松井家墓所としての整備が必要である。

5) 課題

①施設

- ・旧廟の屋根や土壁、板壁の下見板が破損しているため、修復が必要である。
- ・新廟の板壁の下見板が破損しているため、修復が必要である。
- ・新廟下石垣（石積）に孕みや緩みが見られるため、修復が必要である。
- ・新旧廟に安置されている五輪塔について、沈下の可能性がある。

②アクセス

- ・場所が分かりにくいいため、主要道路からの車両誘導の案内板等の設置が必要である。
- ・新八代駅や八代駅あるいは市中心部（八代城跡）から松井家墓所までの距離を考慮した場合、二次交通の整備を検討する必要がある。
- ・JR 八代駅・新八代駅、くまナンステーションでのレンタサイクルの利用を呼びかける。



Photo.31  
旧廟の屋根破損状況（西より）



Photo.32  
旧廟の西壁破損状況（南西より）



Photo.33  
旧廟の庇破損状況（西より）



Photo.34  
新廟の壁破損状況（西より）



Photo.35  
新廟下石垣の現状（南より）



①古廟の外観



②新廟の外観



③古廟内の五輪塔



④松井家一族墓域



⑥春光寺本堂他建造物群



⑤歴代住持墓群



⑦春光寺境内の石垣及び石積



⑧春光寺境内の石垣・灯籠

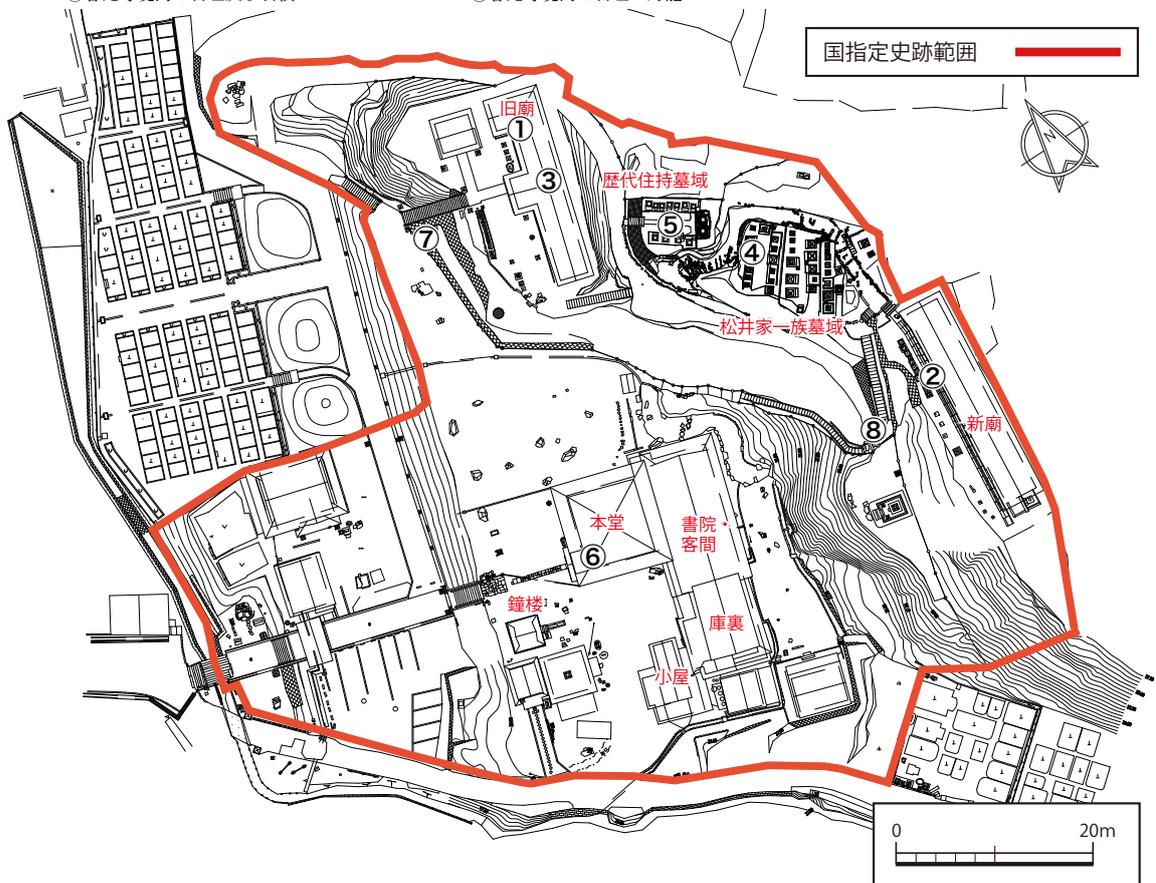


Fig.28 松井家墓所の本質的価値を構成する要素



①永御蔵御門



②永御蔵番所

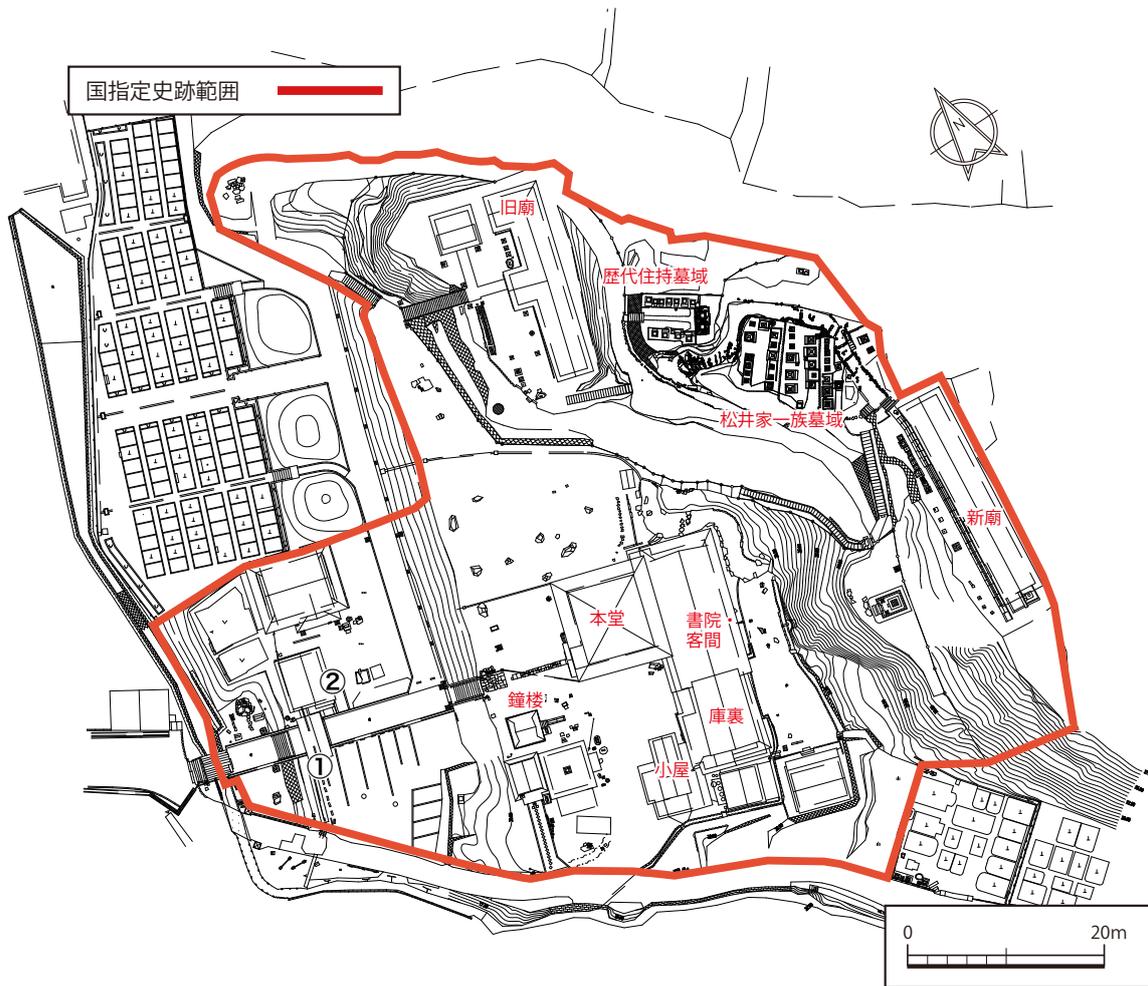


Fig.29 松井家墓所の本質的価値を顕在化する要素



①春光寺境内の歌碑・句碑群



②春光寺境内駐車場



③春光寺参道の石橋

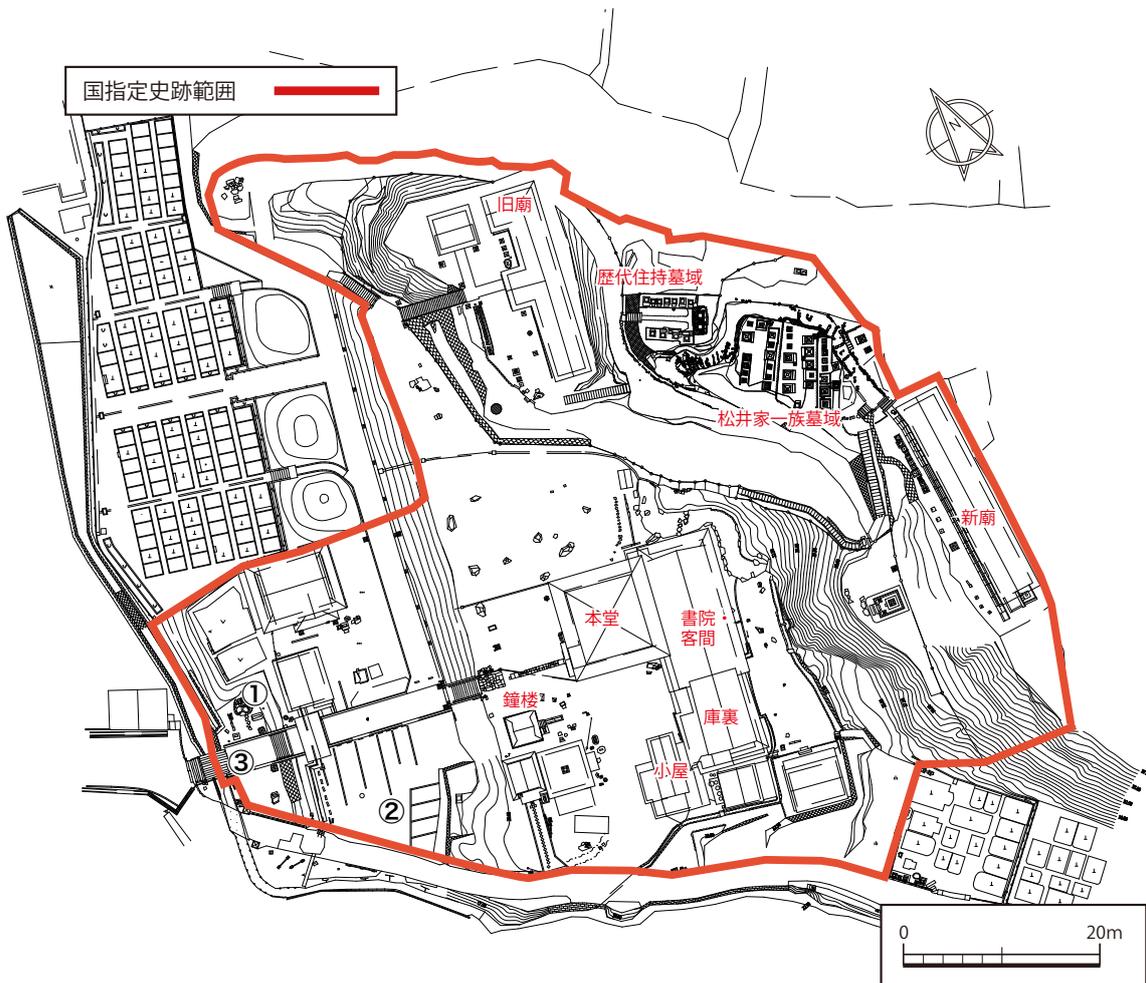


Fig.30 松井家墓所の保存管理・活用上必要な要素

